



NEWS LETTER

March
2022

総合地球環境学研究所

「サニテーション価値連鎖の提案-地域のヒトによりそうサニテーションのデザイン-」プロジェクト

● PLより

Starting Over

山内太郎

2015年度のFS1から2021年度のFR5まで、7年という歳月を経てプロジェクトは終わりを迎えます。昨年12月に地球研の研究・審査報告会、本年2月に外部評価審査会(EREC)を無事に終了しました。3月4日の最後のプロジェクト全体会でみなさんとオンラインでお目にかかったのは記憶に新しいです。その後、3月8日に最後の地球研の教員会議で教員に挨拶をして、山極所長、谷口、マレー両副所長と固く握手をしました。そして3月22日に地球研の全体送別会(オンライン参加)で、お世話になった地球研のみなさんへ挨拶をして公式行事はすべて終わり、3月30日のサニテーションセミナー(法政大学・湯澤先生)を残すのみとなりました。

プロジェクトメンバーのみなさんには、2018年5月から正式にPLとなって以来、多くのご心配とご迷惑をお掛けしました。お陰様でPLの4年間は自分にとって濃密な時間となりました。残念なことに、大切な最後の2年間は海外調査ができず、不完全燃焼のまま時間が過ぎ去っていきました。とはいえ、所内・所外の素晴らしいメンバーに支えられてプロジェクトは研究・審査報告会ならびにERECにおいて、望外の高い評価を得ることができました。大変誇らしいです。メンバーのみなさんにもプロジェクトを誇りに思っただければ嬉しいです。

振り返ってみると、プロジェクトでなし得た数々のことを思い出します。同時に、なし得なかったことの多さにも気付かされます。最終成果物として、サニテーション・トライアングル・モデルとフィールドでの事例を英語書籍にまとめることができました。一方、日本語書籍として「講座 サニテーション学」シリーズ(全5巻)を企画しましたが、プロジェクト期間内には2冊のみの刊行となります。残りの巻についても順次刊行していく所存です。ご協力よろしく願いいたします。日本(石狩)を含めて世界の5つのフィールドで地元のアクターとサニテーションを共創しましたが、持続可能なサニテーションの仕組みを実際に稼働させるまでには至りませんでした。プロジェクトの終わりにあたって、ようやくスタートラインに立つことができたという気持ちです。これからが正念場です。

プロジェクト終了後も、みなさんとのご縁を大切にしていきたいと思っています。プロジェクトで創刊した国際学術誌も装いを新たにして継続して発行します。プロジェクトメンバーを母体として、ヴァーチャルな国際学会を設立し、定期的な国際シンポジウムを開催して緩やかなつながりを維持していきます。年に1、2回は直接お目にかかり、あるいはオンラインで研究について議論したいと考えています。またみなさんとお会いできる日を心待ちにしています。

CONTENTS

01. PLより
「Starting Over」
山内太郎

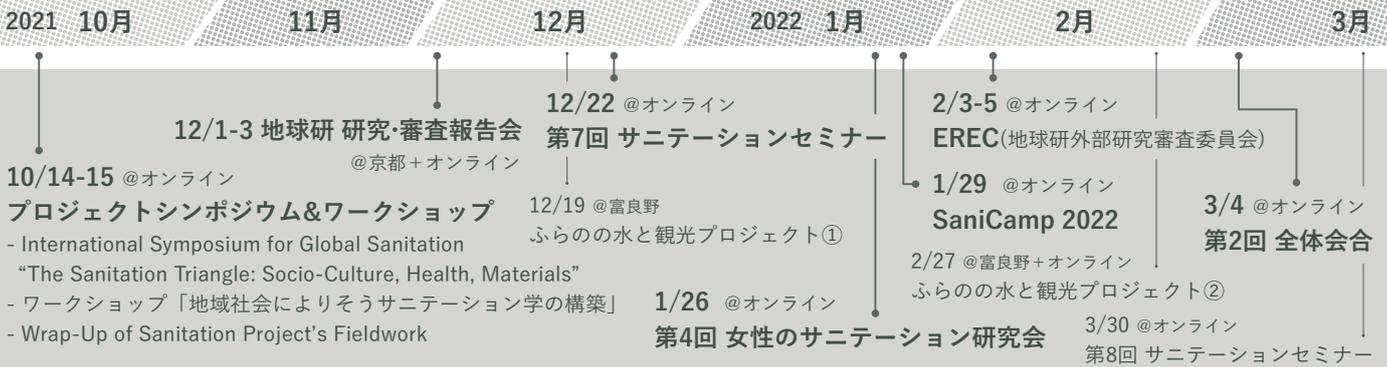
02. イベント・開催報告
* 10月-3月のイベント
* [開催報告] プロジェクトシンポジウム&ワークショップ

03. イベント・開催報告
* その他のイベント
* [報告] プロジェクトの5年間の成果

04. イベント・開催報告/
事務局より
* [報告] ポストプロジェクトの展望
* 農園プロジェクト

● イベント・開催報告

2021年10月-2022年3月のイベント



開催報告

プロジェクトシンポジウム&ワークショップ

10/14-15

プロジェクトの成果報告&まとめイベント

International Symposium for Global Sanitation

The Sanitation Triangle:

Socio-Culture,
Health,
Materials

October 14, 2021
13:00-17:00 (JST)
Online

FRの5年間の成果として、プロジェクトで理論を構築したサニテーション・トライアングルをテーマに国際シンポジウムを開催しました(協賛: 京都大学アフリカ地域研究資料センター)。船水先生に The Sanitation as a Value Creating System と題した基調講演をいただき、その後、サニテーションを構成する3つの要素 Socio-Culture, Health, Materials のコンセプトと事例を発表しました。ペンシルベニア州立大学の Paul Shrivastava 先生、愛媛大学の佐藤哲先生より大変有益なコメントをいただき、外部への初めての発表の場であったと同時に、直接反応を感じることができた貴重な機会でした。

プロジェクトの4つのトピックである Life(中尾先生)、Technology(藤原先生)、Co-creation(牛島先生)、Visualization(片岡さん)が、FRの5年間におけるチームの成果を発表しました。人文学系と工学系の協働のしかたの模索、そうした研究者間の共創の重要性といった学際的な観点と、地域の文化や社会に寄り添った工学技術や共創のあり方、可視化による現地の人々との効果的なコミュニケーションといった超学際的な観点が同時に語られました。異分野の研究者間、研究者-非研究者間の壁をどのように越えられるのか、という試行錯誤がサニテーション学構築に至る道筋となったことが、各発表から具体例とともに示されたワークショップでした。

地域社会によりそう サニテーション学の 構築



2021年
10月15日(金)
13:00-15:10
オンライン

昨年度より海外渡航ができず、本来なら最終年度に現地にて関係者のみなさんと報告会をすることに鑑み、オンラインにてバーチャルラップアップのワークショップを開催しました。それぞれのフィールドチームが趣向を凝らした演出で、現地での活動や経験を楽しく振り返りました。ザンビア大学の Nyambe 先生(事前録画出演)、LIPI(現 BRIN)のみなさん、カメルーンの Simon-Pierre 氏、フィリピンの Aileen 先生が参加してくだ

さいました。また、参加は叶わなかったものの、ブルキナファソや石狩の発表からは、現地の人々の大きな存在が感じられました。これまでのご協力に感謝すると同時に、今後もともに活動を続けていくことを確認しあう場となりました。

Wrap-Up of Sanitation Project's Fieldwork

2021.10.15 16:00-18:00(JST) Online



● イベント・開催報告

開催報告

今後も続けていきたい活動／つながってきたい関係性

次回もぜひご参加ください！

第8回 サニテーションセミナー
2022年3月30日(水) 13:30~15:15
ゲスト：湯澤規子氏 (法政大学 教授)

12/19
2/27

ふらのの水と観光プロジェクト【共催】

富良野高校 × 札幌国際大学

富良野市の暮らしや観光を支えている豊かな水資源について、その強みと課題を高校生と大学生(・大学院生)がともに考える活動がスタートしました。道総研のリードにより、富良野高校科学部と札幌国際大学観光学部・池見ゼミのメンバーが意見を交わしながら、自律的な地域運営のカギとなるアイデアを出し合いました。



12/22

第7回 サニテーションセミナー

日本トイレ研究所代表の加藤篤氏をお迎えし、「80億人のトイレ」と題して、日本国内外におけるトイレの現状や研究所の活動について語っていただきました。日本の小学校のトイレ環境やそこから生じる子どもの便秘などの複雑な問題、あるいは災害時の避難所におけるトイレの実態や課題など、プロジェクトではあまり議論できていないながらも大変重要なテーマを考える機会をいただきました。

1/29

SaniCamp 2022【共催】

日本 × インドネシア × ザンビア
富良野高校 × SMAN 16 × Dziko Langa

日本、インドネシア、ザンビアの若者がオンラインで交流し、身の周りの水と衛生についての考えを発表し、議論しました。お互いの国の現状を知ったり、自分の国の実情を振り返ったりなど、国を越えたコミュニケーションによって未来ある若者たちの柔軟な思考や視野がさらに広がることを期待し、今後も継続していきます。



1/26

第4回 女性のサニテーション研究会

第4回となる本研究会では、広島大学の新本万里子先生から、パプアニューギニアの焼畑農耕民の月経対処の現状と開発支援について、京都大学の四方篤先生からは、視点を変えて、フィールドにおける女性研究者のリアルな月経事情をご報告いただきました。いずれも、月経という女性の個人的な生理現象が、その文化や課題をみると、個人にとどまらず社会的な問題系を有しているということにあらためて気づかされる報告でした。

令和3年度 地球研 研究・審査報告会 / EREC(外部研究審査委員会)のご報告

本年度の地球研 研究審査・報告会(12月)および EREC(2月)では、FRの5年間のまとめとして

1. プロジェクトの5年間の成果と2. ポストプロジェクトの展望について発表しました。

1. プロジェクトの5年間の成果

● 理論的フレームワークの確立

プロジェクトでは、学際・超学際研究のあり方を模索するなかで、可視化とメタ研究を取り入れた方法論を考えました。フィールドにおける取り組み図、アクション・リサーチで行ったフォトボイスやデジタル紙芝居など、可視化は自己や他者の考えを説明したり、理解したり、深く分析するのに有効なツールとなりえます。メタ研究とは、研究者同士の対話やステークホルダーとの活動を振り返ること、すなわち「研究の研究」です。可視化-フィールド実践-メタ研究による振り返りを次の活動にフィードバックしていくというサイクルを繰り返すことが、異分野研究者間の相互理解やフィールドでの共創の促進につながると考え、実践しました。

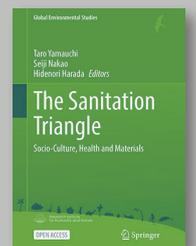
● 価値連鎖の実証研究

日本と世界の5つのフィールドで、サニテーションの共創

を試みました。それぞれのフィールドにおける共創の模索や実践のなかでの試行錯誤を、「講座 サニテーション学」の第5巻にまとめました(2022年3月刊行)。

● 学問体系の構築

サニテーションの価値や意味をゼロから問い直し、3つの要素「健康・幸福」「物質・経済」「社会・文化」に整理しました。そして、要素間の連関が重要であるという考えに基づく、サニテーションを包括的に捉える新しい理論「サニテーション・トライアングル・モデル」を提示し、英語書籍にまとめました。このモデルによるサニテーションの捉え方とフィールドにおける共創の考え方を統合し、新たな学問となる「サニテーション学」を構築しました。



Springer英語書籍(2022年2月刊行)

研究・審査報告会：2021年12月1日(水)～3日(金)

EREC：2022年2月8日(火)～10日(木)

第2回全体会合：2022年3月4日(金)

※ 研究・審査報告会と EREC については、3月4日(金)の第2回全体会合でもご報告しましたので、本報告は全体会合の開催報告も兼ねさせていただきます。

令和3年度 地球研
研究・審査報告会 / EREC(外部研究審査委員会)のご報告【つづき】

2. ポストプロジェクトの展望

● フィールドにおける TD 研究の継続

プロジェクト終了後も各フィールドでの共創は続きます(ブルキナファソは情勢不安定により今後の活動は未定)。

ザンビア：ジコランガの世代交代の仕組み作り、予算獲得のサポートを行っていきます。また、汚染を可視化するアプリの開発も継続して進めていきます。インドネシア：プレ実証のその先のプロセスを再開します。また、SaniCampの継続や活動母体となるサニテーションクラブの設立を考えています。今年度に制作したピクチャーブックを、地域住民とのコ

インドネシア
ピクチャーブック
(2022年3月発行)



ミュニケーションツールとしても活用していきます。石狩：高校生との協働を水管理からサニテーションや観光へと広げていき、地元高校をハブとした自律的な地域運営を目指します。カメルーン：NGOと協働し、汲み取らないトイレとして使用済みのトイレに果樹を植える「フルーツトイレ」

の実験を続けていきます。他方で、SDGsとは反しますが、野外排泄が許容される集団、社会もあるという考えのもとで、狩猟採集社会をそのひとつのモデルとして、野外排泄の安全性、妥当性について調査、検証していきます。

● スケールアップ

プロジェクトの共創はコミュニティレベルでしたが、研究の発展としてコミュニティから地域社会、都市、国へのスケールアップも視野に入れていきたいと考えています。さらに地球規模の窒素循環におけるサニテーションの役割や、狩猟採集-農耕-都市国家形成-産業革命という、人類史におけるサニテーションの変遷、また、霊長類とヒトの排泄の比較による「人類進化とサニテーション」についても考えていきます。

● プラットフォームの維持・発展

2022年4月に、サニテーション学に基づく国際学会 International Society for Sanitation Studies: ISSS を設立し、研究を継続していきます。また、国際学術誌 *Sanitation Value Chain* は *Sanitation* と名をあらため、ISSS の公式雑誌として継続発行していきます。さらに、国内で勉強会グループを作り、情報交換や研究報告の場にしたいと考えています。



Vol. 8 最後の収穫と畑じまい

昨年5月に植えたさつまいもは、テレワークが続くなかであまりお世話ができませんでした。11月に少しでも収穫することができました。この年は京都全体でさつまいもが不足だったようです。笹の地下茎は相変わらず大繁殖しており、畑はいい状態とはいえなくなっていました。この状況で最後を迎えるのは少しさみしいですが、懸案だったコンポストトイレは、地球研の別のプロジェクト(陸と海をつなぐ水循環を軸としたマルチリソースの順応的ガバナンス：サンゴ礁島嶼系での展開プロジェクト、リーダー：新城竜一先生)に無事引き継いでいただくことができました。



みんなでもほり♪

笹の地下茎が
ドえらいことに…



13コ
採れました!

● 事務局より

・編集後記・

最終年度はニューズレターの発行が2回のみとなってしまい、プロジェクトの様々な活動をいち早くシェアできず申し訳ありませんでした。

長いあいだプロジェクトにご協力をいただき、本当にありがとうございました。またどこかでお会いしましょう…

(地球研メンバー一同)

ありがとうございました。
さようなら!



NEWS LETTER No.11 2022年3月 発行

「サニテーション価値連鎖の提案-地域のヒトによりそうサニテーションのデザイン-」プロジェクト
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457-4 総合地球環境学研究所
Email: sanitation_HQ(at)chikyu.ac.jp TEL: 075-707-2331
https://www.chikyu.ac.jp/sanitation_value_chain/

© SANITATION PROJECT